



生きものが他の生きものや環境などに体を似せることを擬態といいます。隠れたり、だましたりできて生存に有利なのでしょう。それにしてもどのようにしてそっくりなものが生まれるのか。進化の興味深いところです。

【コノハムシ】

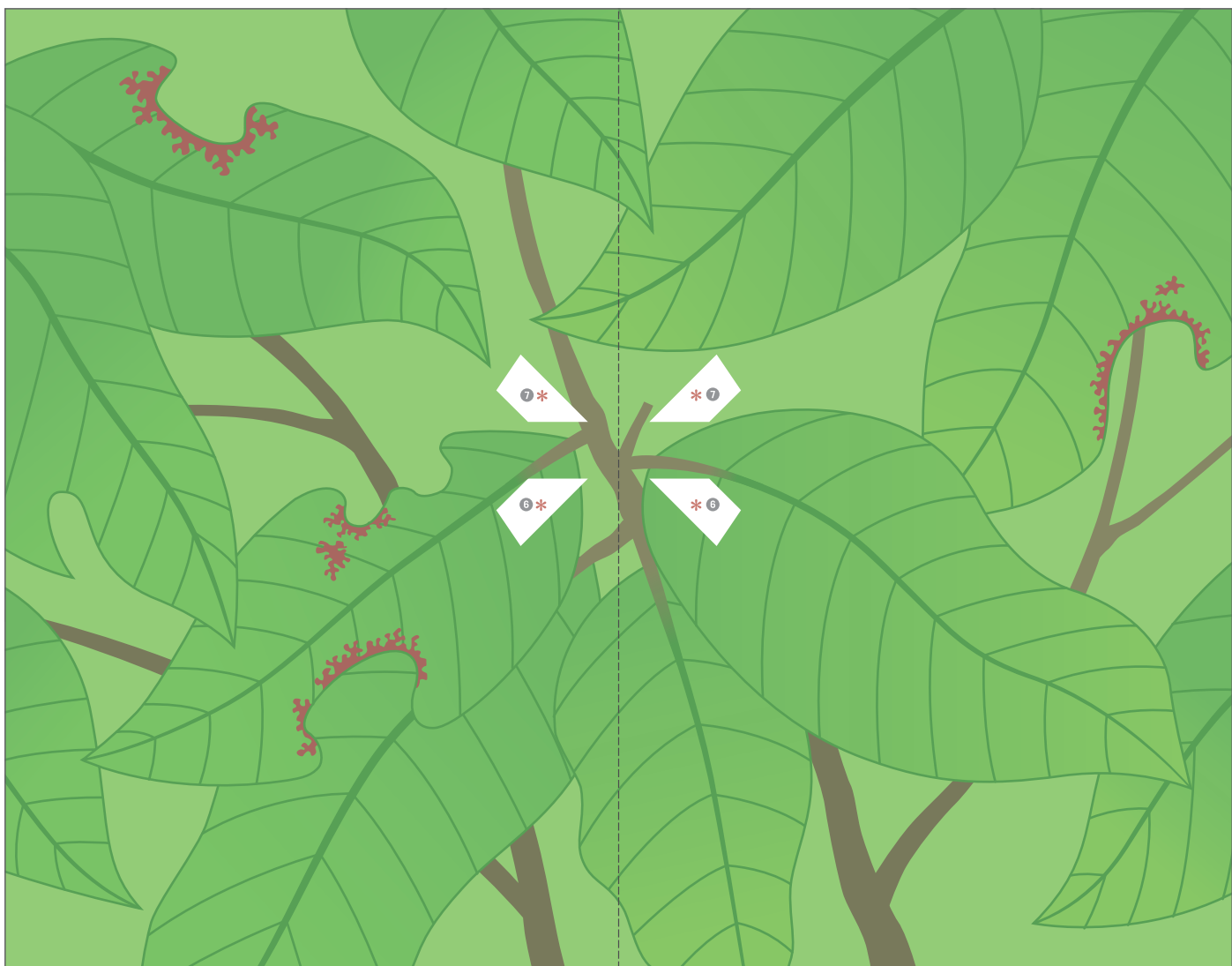
Phyllium giganteum



擬態する昆虫といえば誰もが思い出すコノハムシ。研究館の人気者ナナフシと同じナナフシ目です。葉に擬態しているのはメスで、背中では葉脈がはっきり見え主脈の突き出した葉の裏側を真似ており、お腹は色が濃く葉の表側にそっくりです。この見事なしかげで葉の裏にぶら下がり、葉になりきります。体は翅から大きくはみ出しており飛ぶことはできませんが、餌となる葉に囲まれ単為生殖でも増えるので、どこに行く必要もないのでしょう。恐竜時代の化石にコノハムシが見つかりました。このゆったりした生きかたが優れているのだと歴史が教えてくれています。

BRH

カード内面



展開図：裏面に、別データの〈展開図裏面〉をプリントするとよりきれいに仕上がります

